

平成25年10月28日

**平成25年度「頭脳循環を加速する若手研究者
戦略的海外派遣プログラム」に採択されました**

独立行政法人日本学術振興会の平成25年度「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」に、下記の本学の取り組みが採択されました。

本プログラムは、大学などが世界水準の国際共同研究に携わる若手研究者を海外へ派遣し、さまざまな課題に挑戦する機会を提供する取り組みを支援するもので、公募形式で実施しているものです。

記

【採択事業名】 人類未到エネルギー原子核衝突実験における国際研究連携網強化と研究者育成の発展展開

【事業期間】 平成25年度～平成27年度

【事業内容】

陽子や中性子などを構成する素粒子クォークの多体系が2兆度以上の超高温極限で転移する「クォーク・グルーオン・プラズマ」（通常は陽子などに閉じ込められているクォークが解放され自由に動き回る状態）は、ビッグバンから約10万分の1秒以内の極初期宇宙を支配した物質相です。高エネルギー原子核衝突を用いた同相の実験研究は、極限状態における素粒子多体系の理解を経て、宇宙創成のシナリオ完成へと繋がります。

ビッグバンにより近い極初期宇宙の物質状態を生成して性質を解明すべく、広島大学・東京大学・筑波大学から成る日本グループは、欧州合同原子核研究機構（CERN）LHC加速器においてALICE国際共同実験を推進し、数兆度に達する人類史上最高温度の物質生成を確認しました。

本事業ではCERN研究所に若手研究者を長期派遣し、高エネルギー原子核衝突実験ALICEにおいて、極初期宇宙を支配した高温クォーク物質の性質を明らかにして、ビッグバン直後の物質状態の理解に迫ります。同時に、日欧米の国際研究連携網を発展させ、国際的若手研究者の育成と世界規模の頭脳循環を加速します。

【お問い合わせ先】

大学院理学研究科 准教授 志垣 賢太
TEL&FAX:082-424-7377
教育・国際室国際交流グループ 中家 さおり
TEL:082-424-6045 FAX:082-424-6179